＜第２部　全体構想編＞

第１章　まちづくりの基本理念

第２章　まちづくりの目標

第３章　将来都市構造

第４章　先導的まちづくり構想

第５章　分野別まちづくり方針

第１章　まちづくりの基本理念

１－１　まちづくりの前提条件

まちづくりの基本理念は、上位計画である「唐津市総合計画」に掲げられた将来像、市民アンケートにおける「市民が望む将来のまちづくり像」、「社会的潮流」、導入編を受けて整理した「まちづくりの主要課題」など、都市を取り巻く様々な条件を踏まえて定めます。

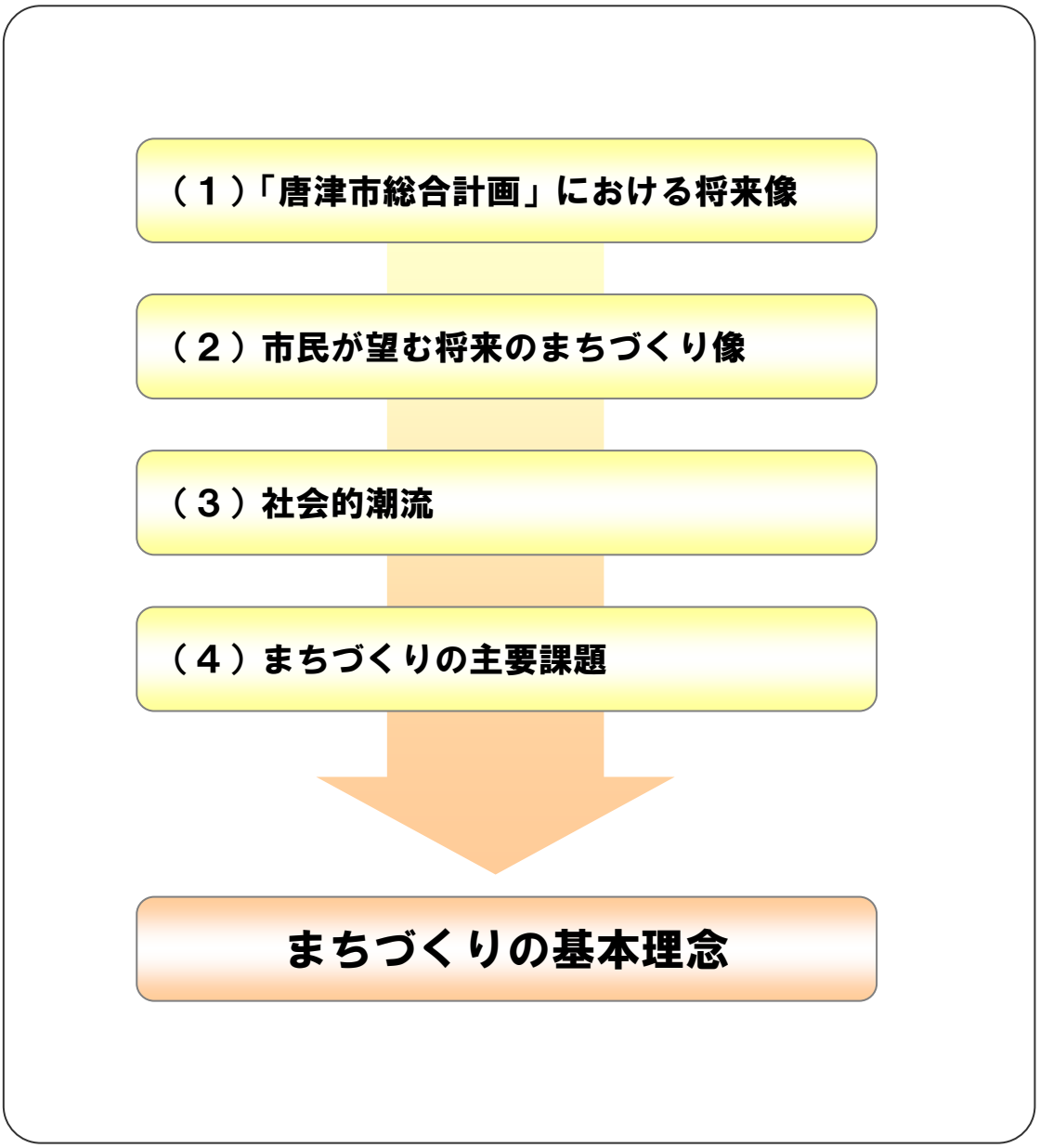


図　まちづくりの基本理念の考え方

（１） 唐津市総合計画における将来像

唐津市総合計画（平成 18 年３月）は、９市町村が合併した後の新しい唐津市の将来像を示したものであるため、本計画の基本理念を検討する際の重要な要素です。

唐津市総合計画では、**「響創のまちづくり　～海・山・川の響きあいが新市の魅力を輝かせ、新しい活力を創る～」**を基本理念に、それぞれの地域の食文化、焼き物、祭りなどの資源を活かし、個性が失われることなく輝き続ける「本物のまちづくり」、「活力あるまちづくり」を目指して、合併後の新しい唐津市づくりをすすめています。

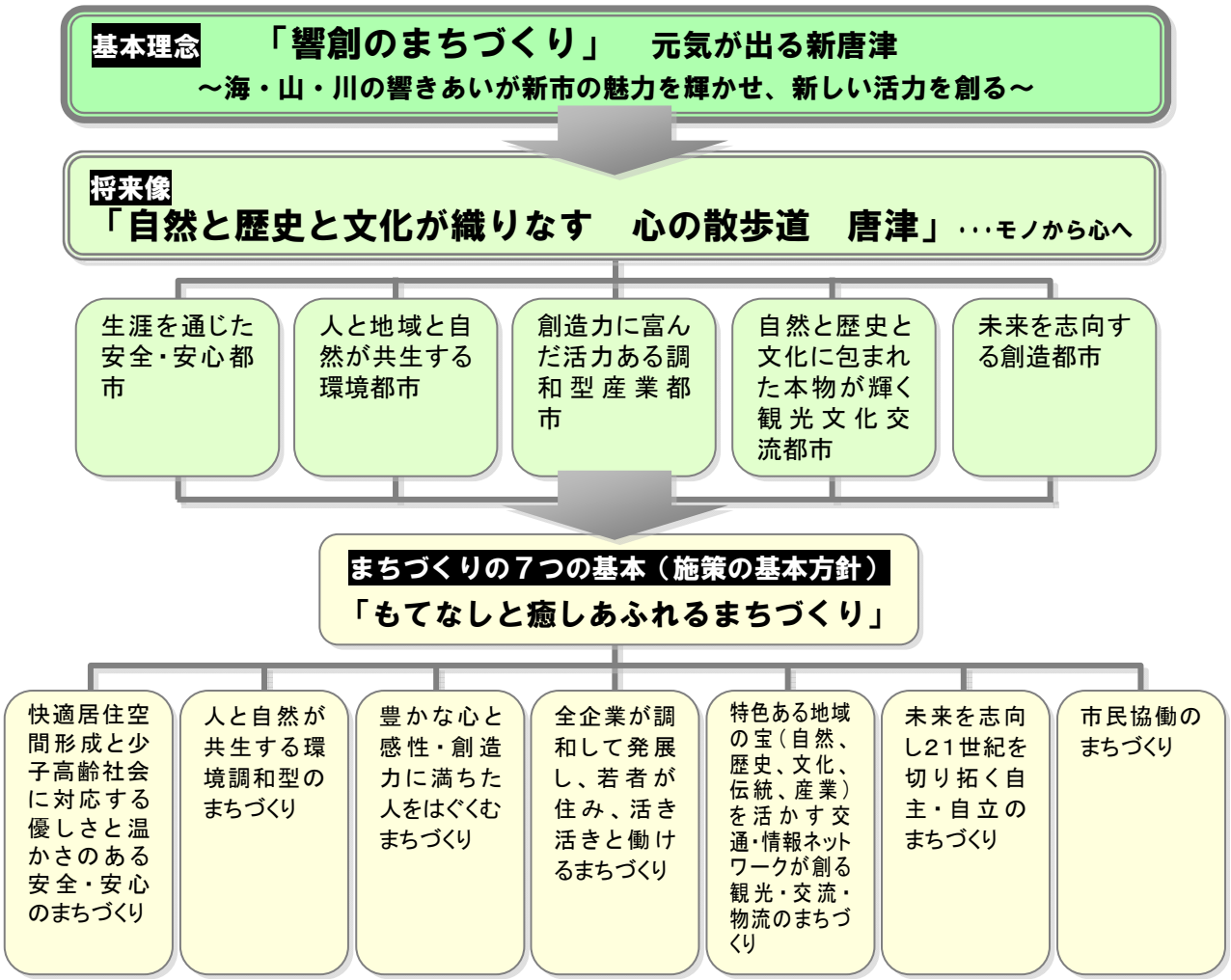


図　唐津市総合計画の体系

資料：唐津市総合計画をもとに作成

●「響」は、唐津市が持つ歴史、伝統、自然のハーモニーをイメージし、互いに響きあうことにより、より以上の力を発揮し、相乗効果をもたらすことを表わしています。
●「創」は、時代の変化に対応した新しい活力の創造を表わしています。
●「響創」とは、各地域が１つになり、連携しあい、発展的に新唐津市を創造していくことを象徴的に表現したものです。

（唐津市総合計画より）

（２）　市民が望む将来のまちづくり（市民アンケート調査結果より）

市民アンケート調査において、将来希望する唐津市のイメージを質問したところ、「働く場が充実したまち」、「高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち」、「海、山、川などの自然が美しく豊かなまち」が上位を占めています。

《現在のイメージ》

集計母数・・・ 949人

選択肢	件数	
1. 農林水産業の盛んなまち	233	24.6%
2. 工業の盛んなまち	6	0.6%
3. 商業・サービス業の盛んなまち	34	3.6%
4. 働く場が充実したまち	63	6.6%
5. 住宅事情が良く、住環境の優れたまち	117	12.3%
6. 山、海、川などの自然が美しく豊かなまち	**702**	**74.0%**
7. 歴史・文化が豊かなまち	418	44.0%
8. 多くの人が訪れる観光や交流のまち	223	23.5%
9. 高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち	154	16.2%
10. 防災性に優れた安全に暮らせるまち	59	6.2%
11. 美しい街並み・景観のあるまち	156	16.4%
12. 地域活動が活発なふれあいのまち	75	7.9%
13. 交通の便の良いまち	103	10.9%
14. その他	23	2.4%
無回答	46	4.8%
計	2,412	

《将来のイメージ》

集計母数・・・ 951人

選択肢	件数	
1. 農林水産業の盛んなまち	188	19.8%
2. 工業の盛んなまち	48	5.0%
3. 商業・サービス業の盛んなまち	90	9.5%
4. 働く場が充実したまち	**466**	**49.0%**
5. 住宅事情が良く、住環境の優れたまち	144	15.1%
6. 山、海、川などの自然が美しく豊かなまち	**393**	**41.3%**
7. 歴史・文化が豊かなまち	100	10.5%
8. 多くの人が訪れる観光や交流のまち	199	20.9%
9. 高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち	**429**	**45.1%**
10. 防災性に優れた安全に暮らせるまち	133	14.0%
11. 美しい街並み・景観のあるまち	128	13.5%
12. 地域活動が活発なふれあいのまち	111	11.7%
13. 交通の便の良いまち	161	16.9%
14. その他	22	2.3%
無回答	51	5.4%
計	2,663	

（３） 社会的潮流

本市のまちづくりを考えるにあたり、次の社会的潮流にも配慮する必要があります。

① 人口減少、少子・高齢化の進行に対応したまちづくり

全国的に人口減少、少子・高齢化が進行しており、2055 年には、国民の 2.5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されています。

これからのまちづくりにおいては、これまでの右肩上がりの都市化社会から一転し、質の高い住環境の整備など機能重視の都市型社会へと転換していくことが必要です。

特に本市の高齢化の進行は、全国平均よりも約 10 年早く、このような人口構造を踏まえたまちづくりが今後必要であり、超高齢社会に対応した人にやさしいまちづくりを進めるとともに、若年層の流出を抑制し、安心して子供を生み育てることのできる快適なまちづくりを進めることが必要です。

② 環境にやさしいまちづくり

生活水準の向上による資源・エネルギー消費量の急激な増加は、自然の持つ浄化作用に大きな負荷を与えており、地球規模の深刻な問題として取り上げられています。近年においては、地球温暖化、異常気象による自然災害の発生などが多発しており、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。

これからのまちづくりにおいては、行政はもちろん住民一人ひとりが地球環境問題の当事者であるとの認識に立ち、環境負荷の軽減に配慮する必要があります。

特に本市の持つ美しい海や山などの豊かな自然は、人々の生活に潤いを与えるだけでなく、まちの活力創造のために必要不可欠な要素であり、自然環境との共生に向けて取り組んでいくことが必要です。

③ 効率的・効果的なまちづくり

三位一体の改革、地方分権の推進などの構造改革が進行する中、地方財政は逼迫した状況となっています。そのような中、近年では郊外への都市機能の移転等により低密度な市街地が拡大しており、新たなインフラ整備など非効率な公共投資が発生している状況にあります。

これからのまちづくりにおいては、限られた財源で諸問題に的確に対応していくため、新たな公共投資をなるべく抑え、既存ストックの有効活用を図りながら機能集約型の都市づくりを進め、効率的・効果的な公共投資を行っていくことが必要です。

本市においても、まちの顔となる中心市街地の再生、及び新設されるインターチェンジ周辺などの市街地外縁部における開発コントロールなどにより、時代の変化に対応した新しい活力の創造を図っていくことが必要です。

④ 交流・連携の視点でのまちづくり

交通体系や高度情報通信基盤の整備により、人々の日常生活圏・経済圏は行政上の区域を超えて広域化し、人・物・資本・情報の移動範囲がこれまでになく広がっています。

これからのまちづくりにおいては、**都市間交流・連携を通して人や地域の結びつきを強め、活力ある地域づくりを進めていく**必要があります。また、今後は国内だけでなく近年の発展が目覚しい中国などの**東アジア諸国との交流・連携も視野に入れたまちのあり方を考えていく**ことも必要です。

本市においても、西九州自動車道や佐賀唐津道路の整備により、広域間交流の拡大が期待される状況にあります。また、本市は合併して間もないことから広域間交流と同時に市内各地域間の交流も重要なまちづくりの課題です。今後、地域間交流の増進により、個性ある地域が集まった相乗効果を発揮し、魅力あるまちへと発展させていくことが必要です。

⑤ 多様化する人々の価値観に対応したまちづくり

社会経済の成熟が進む中、物質的な豊かさよりも心の豊かさを大切にする方向に人々の価値観が変化し、生活のあり方においても生きがいや余暇時間が重視されるなど、生活の質の向上を目指すようになっています。

これからのまちづくりにおいては、心豊かで文化的な生活を実現するためにも、**暮らしの質的な向上に向けた条件整備を進めるなど、ゆとりとくつろぎのあるまちづくりを進める**必要があります。

本市においても、市民が心豊かに生活できる環境の充実は必要不可欠なものであり、身近な公園などの都市基盤整備と同時に、本市の持つ美しい海や山などの豊かな自然、多彩な歴史・文化を活かしたまちづくりを進めていく必要があります。

⑥ 情報化の進展と連携したまちづくり

平成 20 年度において全国のインターネットの人口普及率は約 75%と、情報基盤が充実した環境となってきています。

これからのまちづくりにおいては、この充実した情報基盤施設を利用した市政情報の発信や市民の意見の収集など、**地域づくりへの住民参加手法として広く利用していくことが重要**です。また、山間部や離島など交通の不便な地域においては、災害発生時等の緊急時のライフラインとして情報基盤は不可欠な要素であるため、今後**未整備エリアの整備促進を図っていくことも重要**です。

本市の情報基盤施設は、地域間の情報格差解消に向けて推進してきた結果、全地域において整備済みとなっています。今後はこれら基盤を利用した身近にまちづくりへ参画できる仕組みづくりを進めることにより、活力ある地域づくりにつなげていく必要があります。

（４） まちづくりの主要課題

現況編で整理したまちづくりの課題、総合計画における将来像、市民が望む将来像、および社会的潮流を受けて、まちづくりの主要課題を整理すると概ね以下の３つに集約されます。

①市街地拡大の抑制と豊かな自然・文化と共生した環境の形成

②中心市街地の再生など広域的視点に立った拠点整備と地域の特性を活かしたまちづくりの推進

③少子・高齢社会に対応した安心して住み続けられる環境の形成

①市街地拡大の抑制と豊かな自然・文化と共生した環境の形成

本市は、沿岸部には虹の松原をはじめとする玄海国定公園、山間部には天山県立自然公園など、国定・県立自然公園に指定された美しく豊かな自然を擁しています。

しかし、近年においては、市街地外縁部において農地転用によるミニ開発団地の建設等が頻発しており、また、今後西九州自動車道インターチェンジ建設が予定されている地域もあることから、将来的に交通や土地利用の面において、環境が大きく変化することが予想されます。新たな開発による市街地の拡大は、美しい自然環境を破壊するだけでなく、道路、下水道等の新たな公共投資が必要となるなど、様々な影響を及ぼすことになります。

このため、将来における環境変化を適切に見通しながら、総合的・計画的な視点による土地利用の規制・誘導を進めていく必要があります。

また、美しい自然環境以外にも、地域独自の祭り、歴史的資源等の個性ある文化や、海の幸、山の幸などの豊富な食材を有しており、これら資源を活かすとともに、もてなし環境の充実を図る必要があり、こうした取り組みを通して観光客をはじめとした交流人口の増加をめざした取り組みが必要です。

- ○ 将来における環境変化を適切に見通した、総合的・計画的な視点による土地利用の規制・誘導が必要
- ○ 資源の活用、もてなし環境の充実等を通した観光客をはじめとした交流人口の増加の促進が必要

②中心市街地の再生など広域的視点に立った拠点整備と地域の特性を活かしたまちづくりの推進

本市は、９つの市町村が合併してできた新しい市であり、各々の地域が個性あふれる地域となっています。合併以前からも広域行政を進めてきた実績はありますが、地域間の連携が未成熟な状態であり、市全体としてのまちづくりにおいては、地域特性の活用と市全域の活力向上、ひいては西九州の拠点都市としての発展に寄与するまちづくりを効率的・効果的に進める必要があります。

唐津地区は、住機能、商業機能、行政サービス機能等、様々な機能が集積し、市の中心的な役割を果たしています。しかし、現状では、商店街での空き地、空き店舗などの低未利用地の増加、街なか人口の減少や高齢化による活力低下、市街地外縁部での低密度な市街地の拡大など様々な課題を抱えています。

また、周辺地域においては、美しい自然や個性ある伝統・文化などの資源を有するものの、旧来の市街地においては人口減少、高齢化等の進行により、地域の活力低下が著しい状況となっています。

このため、唐津地区においては、現状の問題解消はもちろん、市全体の活力をけん引する「唐津の顔」としての都市機能の整備、魅力の再生など、中心市街地の再生を図る必要があります。また、周辺地域においては、日常生活における利便性確保に向けた住環境の維持・整備とともに、各々の特性を活かした地域づくりを進める必要があります。同時に地域間を結ぶ幹線道路の整備や公共交通の充実等により、地域間の結びつきを強化し、市全体で各機能を補完・連携する体制づくりが必要です。

- ○ 地域特性の活用と市全域の活力向上、ひいては西九州の拠点都市としての発展に寄与するまちづくりを効率的・効果的に進めることが必要
- ○ 唐津地区では、市全体の活力を牽引する「唐津の顔」としての都市機能の整備、魅力の再生など、中心市街地の再生を図ることが必要
- ○ 周辺地域では、日常生活における利便性確保に向けた住環境の維持・整備、および各々の特性を活かした地域づくりを進めることが必要
- ○ 地域間の結びつきを強化し、市全体で各機能を補完・連携することが必要

③少子・高齢社会に対応した安心して住み続けられる環境の形成

本市の老年人口比率は、平成 17 年現在で約 24%と４人に１人が 65 歳以上の高齢者となっています。今後もこの傾向が続き、20 年後にはその率が３割を超え、３人に１人が高齢者となる社会が到来すると予測されています。

そうした中、今後の都市づくりにおいては、高齢社会への対応や子育てしやすい環境づくりのため、安全な歩行空間の確保や憩いの場となる公園の整備・充実などあらゆる面においてユニバーサルデザインの理念に基づいた施設整備が必要です。同時に、鉄道、バスなどの公共交通は高齢者の重要な交通手段となることから、今後とも維持していく必要があります。

また、本市には急傾斜地や地すべり等の危険区域や河川改修が完了していない地域などが見られます。自然災害から市民の生命と財産を守るためにも、これら危険区域における災害対策や避難所、避難経路・方法の周知など災害に強いまちづくりを進める必要があります。

さらには、防災だけでなくあらゆる面において行政に頼るだけでなく、地域住民が主体となって自分たちのまちづくりを考えて実行していくことが必要です。特に地域の個性を活かした魅力的なまちづくりを目指す上では住民の参画は不可欠であり、まちづくり団体など住民を巻き込んだ地域づくりを進める必要があります。

- ○ あらゆる面においてユニバーサルデザインの理念に基づいた施設整備が必要
- ○ 高齢者の重要な交通手段となる公共交通を維持していくことが必要
- ○ 災害に強いまちづくりを進めることが必要
- ○ 地域住民が主体となって自分たちのまちづくりを考えて実行していくことが必要

１－２　まちづくりの基本理念

本市は、平成 17 年１月、および平成 18 年１月に９つの市町村（唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町、七山村）が合併して誕生した新しい市です。

平成 18 年３月には、本市の最上位計画である「唐津市総合計画」を策定しており、「響創のまちづくり　元気が出る新唐津」を基本理念としてまちづくりに取り組んでいます。

本計画においては、この総合計画の基本理念を踏襲し、「響創のまちづくり」を本計画の基本理念とします。

響創（きょうそう）のまちづくり　元気が出る新唐津

～海・山・川の響きあいが新市の魅力を輝かせ、新しい活力を創る～

●「響」は、唐津市が持つ歴史、伝統、自然のハーモニーをイメージし、互いに響きあうことにより、より以上の力を発揮し、相乗効果をもたらすことを表わしています。
●「創」は、時代の変化に対応した新しい活力の創造を表わしています。
●「響創」とは、各地域が１つになり、連携しあい、発展的に新唐津市を創造していくことを象徴的に表現したものです。

本計画における「響創のまちづくり」について以下に示します。

○「響」のまちづくり

本市が持つ、自然、歴史、文化の響きあいによって生まれる相乗効果を、個性的なまちづくりの要素として取り込み、まちの活力創造を図ります。

○「創」のまちづくり

超高齢社会の進行、市街地の活力低下など、本市の抱える都市問題に対して、元気が出る魅力あるまちを創るための対策を展開します。

○　地域の資源を活かした個性的なまちづくり
○　市全域の活力をけん引する「唐津の顔」となる中心市街地の再生
○　各地域の生活環境の充実による活力向上
○　地域間連携の相乗効果により、地域の個性がキラリと光る活力溢れる魅力あるまちづくり

（１）　まちづくりの展開方針

基本理念である「響創のまちづくり」を実現させるため、以下のような展開方針でまちづくりを進めていきます。

響

①雄大な自然環境、多彩な伝統・文化の維持･保全および活用によるまちづくりの展開

合併により格段に増加した地域の宝を維持・保全・活用するとともに、互いに連携させることにより、まちの活力向上を図っていきます。

創

②市民が住んで楽しい、誇りをもって生活できるまち、来訪者が訪れて楽しい、魅力あるまちと思えるまちづくりの展開

市民が元気に楽しく生活しているまちこそが魅力あるまちであり、かつ来訪者にも魅力あるまちと映ります。市民、来訪者両方の視点でまちづくりを展開していきます。

③暮らしの質を豊かにするまちづくりの展開

まちづくりの基本は「安全･安心」であり、そのためにも、上記①②のまちづくりの展開方針を補完する形で、安全で快適に暮らせるまちづくりを展開していきます。

元気が出る新唐津　個性ある地域が一つになって、新しいまちを奏で始める

第２章　まちづくりの目標

まちづくりの基本理念、展開方針を受けて、具体的なまちづくりを進めるため、以下のような３つの目標を設定します。

①海・山・川などが育んだ自然・歴史・文化を活かした魅力ある交流の都市づくり

本市の魅力の１つである貴重な自然環境、伝統・文化を守り、育て、継承するとともに、これらを活用したまちづくりを進めます。

- ○美しい自然環境の保全
- ○自然と調和する街並み・暮らしづくり
- ○恵まれた地域資源を活かした観光交流の促進

②都市中心拠点の求心力向上と、地域生活拠点の活力向上を目指した都市づくり

唐津地区とその他地域の役割分担を明確にし、各地域の整備・再生・維持を図るとともに、地域間連携を強化することにより本市全体の活力向上を図ります。

- ○都市中心拠点の整備・再生
- ○地域生活拠点における環境整備
- ○都市中心拠点、地域生活拠点を結ぶネットワークの強化

③誰もが安全に安心して暮らせる快適な都市づくり

ユニバーサルデザインの理念に基づいた施設整備や公共交通体系の維持・充実等により、全ての人が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

- ○誰もが利用しやすい都市空間の形成
- ○災害に強いまちづくりの推進
- ○地域みんなで取り組む協働のまちづくり

２－１　まちづくりの目標①

海・山・川などが育んだ自然・歴史・文化を活かした魅力ある交流の都市づくり

○美しい自然環境の保全	玄海国定公園や天山県立自然公園など、本市の大きな魅力である自然を保全するため、将来に向けて守るべき緑を明確にするとともに、各種法令との連携のもと、適正に規制・誘導し、貴重な自然環境を維持・保全していきます。 また、松浦川、玉島川及び唐津湾等の水環境についても、地域に応じた生活排水対策等により、健全な姿で後世に継承するよう努めます。
○自然と調和する街並み・暮らしづくり	開発圧力の高まっている市街地外縁部においては、他法令の土地利用規制の的確な運用や、これらと整合・連携した都市計画法による土地利用規制の充実等、土地利用施策を進めます。 また、豊かな自然を背景とした農山漁村集落については、過疎化の問題や市内外の人々の多様な居住意向に対応した活用・整備を進めるほか、自然災害対策により、安全な暮らしを確保するための取り組みを進めます。
○恵まれた地域資源を活かした観光・交流の促進	本市は、国定公園、自然公園などの良好な景観資源や、唐津城、名護屋城、唐津くんちといった伝統的な文化が継承されていること等から、県内随一の観光地となっています。 これからもその資源を維持・保全していくとともに、よりよいもてなし環境の整備・充実を図り、都市部との交流促進、さらには魅力ある雇用の場の創出につながるような取り組みを進めていきます。

２－２　まちづくりの目標②

都市中心拠点の求心力向上と、地域中心拠点の活力向上を目指した都市づくり

○都市中心拠点の整備・再生

唐津地区は、本市の中心的役割を担うエリアとしてだけでなく、本県北部地域をけん引する拠点都市として期待されていることから、「唐津の顔」としてのさらなる都市機能の充実が求められています。

このため、唐津駅から大手口を中心とした市街地を「都市中心拠点」として位置づけ、魅力ある都市空間が形成されるよう、都市計画法に基づく土地利用ルールの検討や、市街地として必要な都市施設等の整備を進めます。あわせて、街なか居住の促進や公共交通機能の充実等も進め、歩いて暮らせる街なかの形成を図ります。

○地域生活拠点における環境整備

唐津地区以外の８地区の各支所を中心とした区域は、各地域での生活の中心となって機能することが求められます。

このため、各々の地域生活の中心の場を「地域生活拠点」として位置づけ、日常生活で必要な機能については日常生活圏で身近に享受できるよう、快適で魅力ある住環境の維持・整備を図ります。また、既存産業の振興を図るのはもちろんのこと、高速交通体系の整備と連携した新たな産業の振興や観光資源の利活用など、地域の特色を活かした地域づくりも進めます。

○都市中心拠点、地域生活拠点を結ぶネットワークの強化

本市は 9 市町村が合併して間もないこともあり、地域間の連携がまだまだ未成熟な状況にあります。これからは、一体的なまちづくりを進めていく必要があることから、地域間の連携を図ることが求められています。

このため、都市中心拠点、地域生活拠点それぞれの機能充実を図るとともに、買回り品の購入や芸術文化などの広域的なサービスは都市中心拠点で享受できるようにするため、都市中心拠点と地域生活拠点とを結ぶ公共交通などのネットワークの強化を図ります。また、物流や離島との交流拠点となる唐津港についても、港湾施設、市場機能の充実を図り、今後人・物・情報の交流基地としての利活用を促進します。

２－３　まちづくりの目標③

誰もが安全に安心して暮らせる快適な都市づくり

○誰もが利用しやすい都市空間の形成

市民が快適な生活を送るためには、心が安らぎ、ゆとりと豊かさを実感できる空間が必要です。そのため、身近な公園や親水空間など地域特性に応じた計画的な施設整備・充実を図ります。

また、高齢化が進行する中、ユニバーサルデザインの理念に基づいた歩道空間や公共施設のバリアフリー化の推進とともに、バスや鉄道などの貴重な公共交通の維持を図り、誰もが利用しやすい快適な都市空間の形成に努めていきます。

○災害に強いまちづくりの推進

地球温暖化による異常気象や予期せぬ地震発生など、近年自然災害による被害が大きな問題となっています。

市民の生命と財産を守るためにも、治山・治水事業や耐震改修等の災害に強い都市基盤の整備を図るとともに、ハザードマップ等による災害危険箇所の周知や自主防災組織の結成など、ハード、ソフトを含めた防災対策の取り組みを進めます。

○地域みんなで取り組む協働のまちづくり

まちづくりを進めていく上では、その主役である地域住民の参画が必要不可欠です。本市には、まちづくり活動を行うNPO等の団体が多く見受けられ、これからのまちづくりにおいてはこうした地域活動を取り込んでいく必要があります。

このため、市民や企業、NPO 等、様々な主体が参加し、協働していけるよう、行政としては、市民の参画意識・機会づくりを行うとともに、市民自らが考え、実行する市民協働のまちづくりの仕組みを検討していきます。

第３章　将来都市構造

基本理念、まちづくりの目標を実現するためには、どのような都市機能を配置・誘導し、どのような都市施設の配置や土地の使い方を目指すか、基本的な方向性を「都市構造」として整理します。

３－１　現在の都市構造

将来都市構造を検討するにあたり、まず現在の都市構造がどのようになっているのか、導入編で整理した自然的要素や歴史・文化的要素等を踏まえながら整理します。その上で、将来都市構造を検討する際にどのような点に留意すべきかを整理します。

（１）　自然的、歴史・文化的要素等を踏まえた現在の都市構造

本市の**自然的要素**をみると、南東部に八幡岳や天山をはじめ県立自然公園に指定された豊かな山々が鎮座し、北西部には上場台地や玄海国定公園に指定されたリアス式海岸・島しょが取り囲んでおり、その中央を一級河川松浦川が流下する形状となっています。これら雄大な自然によって形成された地形が本市の都市骨格を形成しています。

都市基盤をみると、松浦川沿いに鉄道、主要道路が通過しており、道路に関しては国道202 号、203 号等が南北軸として、国道 202 号、204 号、323 号等が東西軸および沿岸軸として本市の道路骨格を形成しています。また、道路網だけでなく、松浦川、厳木川、徳須恵川、玉島川および玄界灘等の『水面』を軸として各地域が連携しています。

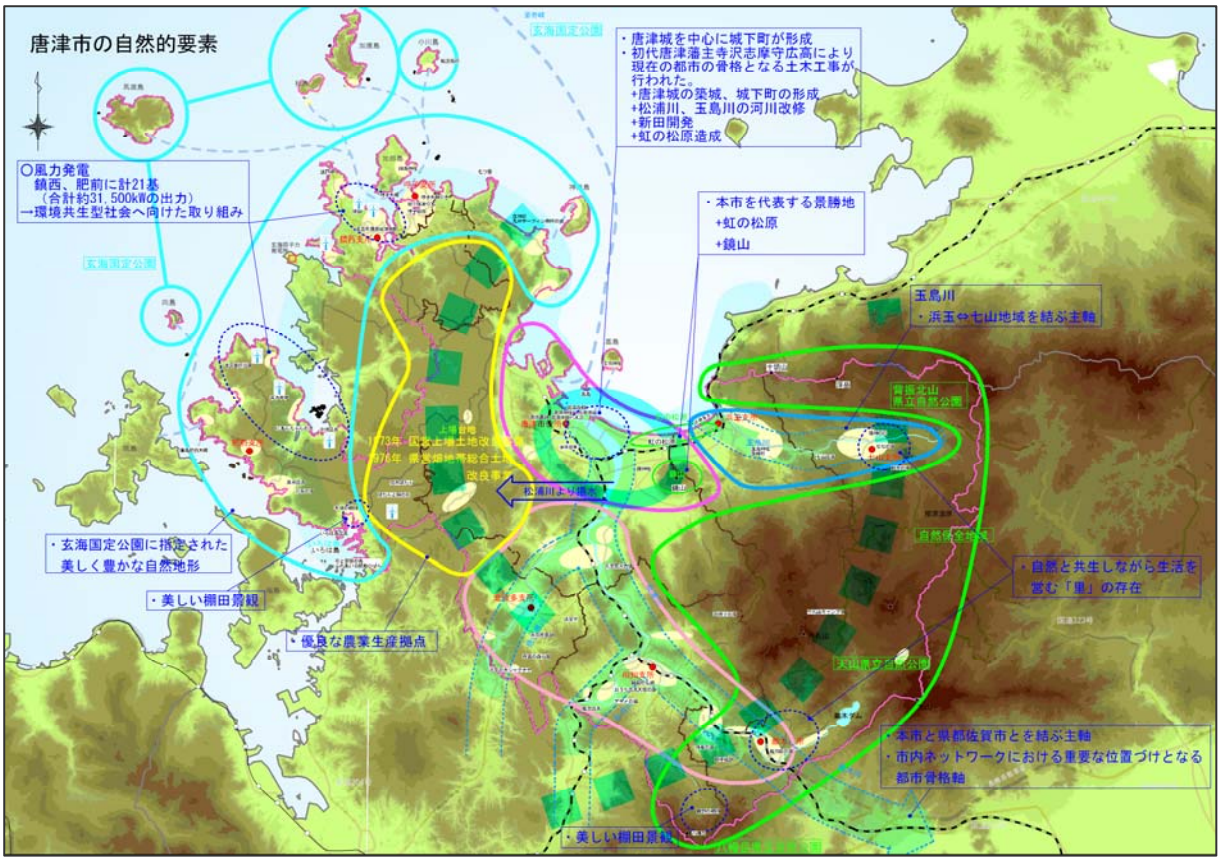
歴史・文化的面をみると、西側は、大陸に近いことから多彩な文化が育まれてきた地域であり、東側は、自然豊かな山地の中で自然環境と人々の生活との共生の場となる地域となっています。中央には唐津城をはじめ様々な歴史・文化的資源が集積しているものの、周辺地域にも豊富な歴史・文化的資源が分布しており、各地域がメインとなりうる潜在能力を持っています。

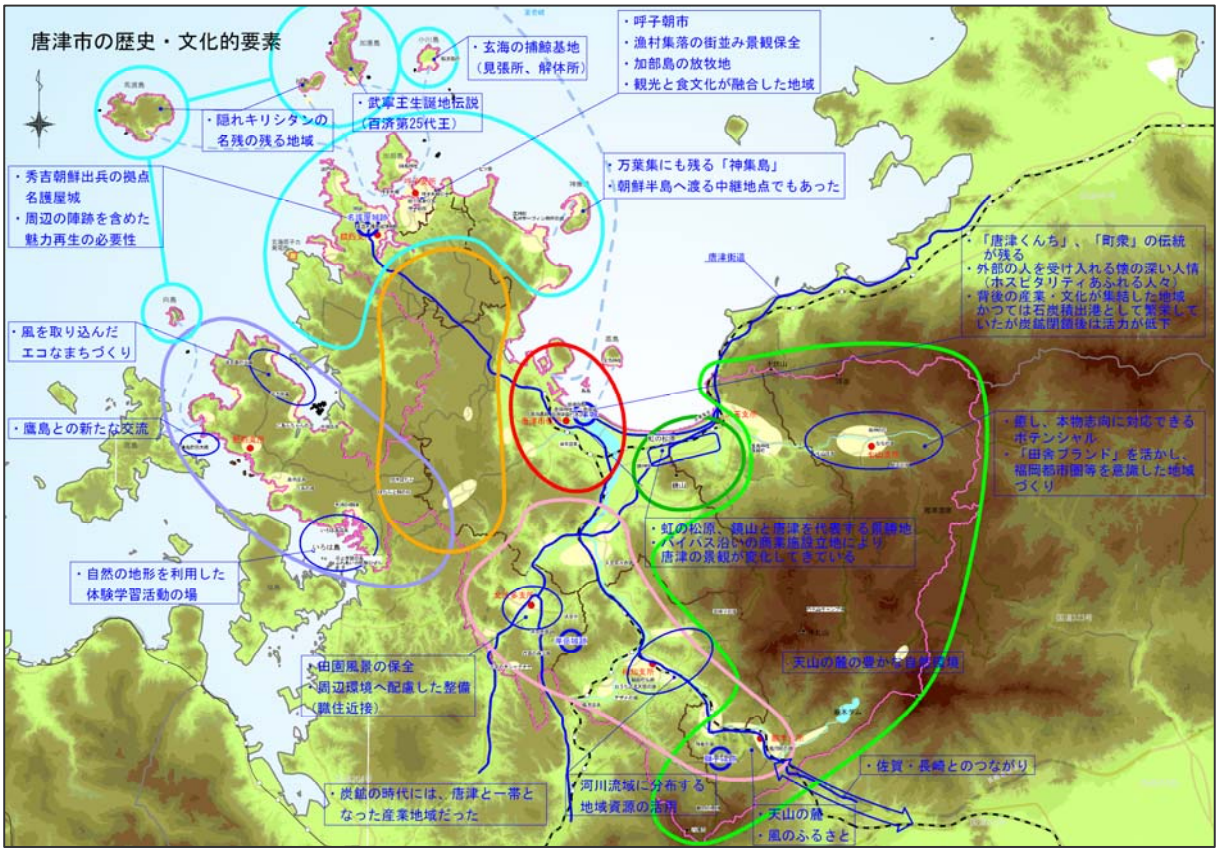
地域間のつながりをみると、中心部は古くは石炭積出港として、また近年では就業・就学の場として地域の中心となって発展してきたところです。しかし、人口減少、少子高齢化、モータリゼーションの進展など社会的環境の変化から、中心部の求心力は低下しています。また、合併したものの、中心部と周辺部との連携は維持されているものの、周辺地域間の連携はさほど強くない状況となっています。

＜現在の都市構造のポイント＞

- ○　南東側に豊かな山地、北西側に上場台地と美しい沿岸部が広がり、その中央を松浦川が流下するダイナミックな自然地形が形成
- ○　大陸との交流の歴史や生活の営みの中から息吹き始めた文化が各地に存在
- ○　東西により異なる特性を持つ自然、歴史・文化等の特性が、本市の中央を流れる松浦川沿岸地域で出会い、そこが本市の中心的な場所として発展
- ○　唐津市中心部だけではなく、周辺地域にも個性ある多様な歴史・文化的資源が存在
- ○　過去は中心部の求心力が高かったが、現在は社会的環境の変化により求心力が低下
- ○　通勤・通学等、周辺と中心部との連携は強いものの、周辺間の連携はさほど強くない

（再掲）唐津市の自然的要素、歴史・文化的要素図





（２）　将来都市構造を考える上での留意点

現在の都市構造をみると、将来都市構造を考える上での留意点が見えてきます。将来都市構造を考える上での留意点について、市全体での視点、および地形等により区分した各地域での視点の２つの視点で整理します。

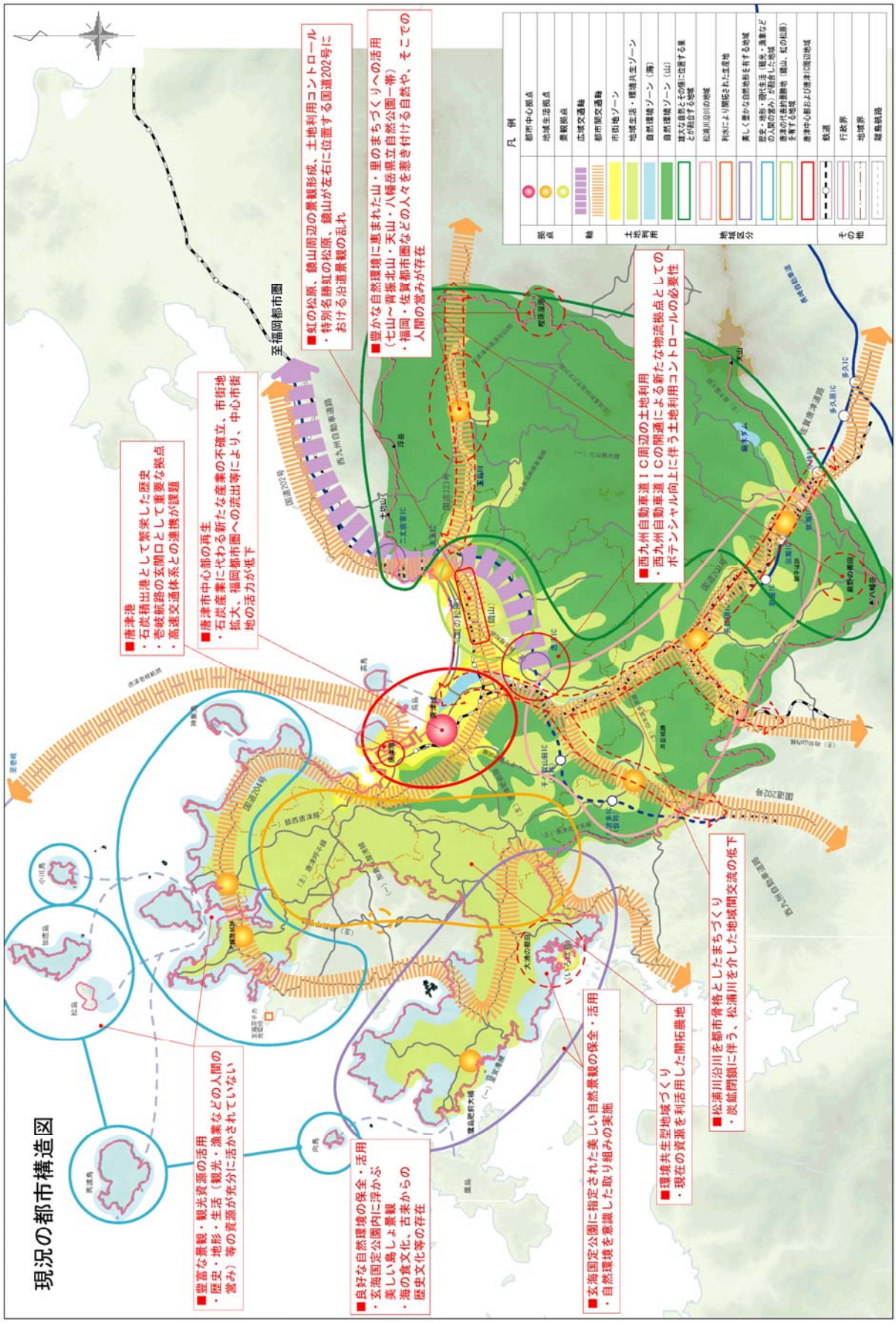
① 市全体での視点からみた将来都市構造を考える上での留意点

現況および将来都市構造を検討する上での留意点
■市内ネットワークの充実 ○　本市の９地域は、唐津中心部を拠点とした生活圏が形成されていましたが、モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化等による生活圏の拡大、少子高齢化の進行など、社会的環境が変化した結果、中心部の求心力が低下しています。 ○　唐津中心部と周辺地域との繋がりは維持されているものの、各地域間の繋がりはさほど強くない状況です。 **⇒地域の魅力をお互いに知り、融合することによって生まれる相乗効果をまちづくりに活かしていくため、地域間の連携を促進するネットワークの充実が必要です。**
■高速交通体系と連携したまちづくり ○　西九州自動車道、佐賀唐津道路が整備中であることからも、広域交流の拡大による交流人口の拡大が期待される一方、福岡都市圏・佐賀都市圏への流出も懸念されています。 **⇒高速交通体系の充実を見据え、中心市街地・唐津港の再生、観光施策との連携など、他都市圏への流出抑制と通過点とならないまちづくりが必要です。**

② 各地域での視点からみた将来都市構造を考える上での留意点

将来都市構造を検討する上での留意点
松浦川沿川の地域（唐津、北波多、相知、厳木） **■松浦川沿川を都市の骨格としたまちづくり** ○　松浦川沿川は、藩政時代は唐津藩と佐賀藩を結ぶ街道として、近代は河川等を介して厳木、相知、北波多の炭鉱と石炭積出港のある中心部とを結ぶ産業ルートとして、現在においても本市を形作る骨格軸として重要な位置づけとなっています。 **⇒各地域の特性を活かし結びつける「響創のまちづくり」のためにも、本市の都市の骨格を形成する主軸として、また、市内ネットワークの中軸としての位置づけを明確にする必要があります。**
雄大な自然とその懐に位置する里とが融合する地域（七山、厳木、相知） **■豊かな自然環境に恵まれた山・里のまちづくりへの活用** ○　豊かな自然環境や七山ファーミンなどの地域の特徴を活かした取り組みにより、福岡・佐賀都市圏からの人々を惹き付けています。 **⇒現状の環境を魅力として、ここにしかない魅力を守り・育てる地域づくりを継続的に進めていく必要があります。**
利水により開拓された生産地（上場台地）（唐津、肥前、鎮西） **■環境共生型地域づくり** ○　松浦川からの揚水を活用するなど、今ある資源を利用する環境に配慮した取り組みにより整備された生産地となっています。 **⇒本市の農業生産拠点としての位置づけとともに、今後も環境共生型の地域として生産性向上を図る必要があります。**

将来都市構造を検討する上での留意点
美しく豊かな自然地形を有する地域（肥前） **■玄海国定公園に指定された美しい自然景観の保全・活用** ○　美しく豊かな自然地形の中にある、自然体験施設やクリーンエネルギーである風力発電、棚田など、自然環境を活用した取り組みが行われています。 **⇒地域資源を活かした環境共生型の地域づくりを進める必要があります。**
歴史・地形・現代生活（観光・漁業などの人間の営み）が融合した地域（呼子、鎮西） **■豊富な観光・交流資源の活用** ○　呼子・鎮西には、呼子朝市や名護屋城跡などの全国的知名度を誇る観光・交流資源が豊富であるにも関わらず、充分に活かされていない状況です。 **⇒多数の観光・交流資源と地域の特徴を連携させ、相乗効果による地域づくりを進める必要があります。そのためにも、周辺の観光・交流資源と連携した「観光周遊ルート」を確立し、観光・交流拠点としての位置づけを強化する必要があります。**
唐津の代表的景勝地（鏡山、虹の松原）を有する地域（唐津、浜玉） **■虹の松原、鏡山周辺の景観形成、土地利用コントロール** ○　特別名勝虹の松原、鏡山など本市を代表する景観地ですが、その間に位置する国道 202 号沿道は商業施設の屋外広告物乱立により、調和を乱した沿道景観となっています。 **⇒周辺環境との調和のとれた土地利用コントロールや景観形成を図る必要があります。**
唐津市中心部、および唐津 IC 周辺地域（唐津） **■唐津市中心部の再生** ○　唐津藩成立以降、唐津市の中心地として栄えていたが、近年の社会環境の変化による郊外への市街地拡大や福岡都市圏への流出等により、中心市街地の活力が低下しています。 **⇒市全域の活力けん引のためにも、中心部の再生による求心力向上を図る必要があります。** **⇒域内交流の活性化のため、中心部に人を呼び込む仕組みづくり（例：歴史・文化資源（おくんち等）を通した交流）が必要です。** **⇒また、アジア諸国との交流を踏まえた将来像の検討も必要です。** **■西九州自動車道 IC 周辺の計画的な土地利用** ○　IC 周辺の開発圧力の増大による周辺環境の急激な変化が懸念されています。 **⇒まちの活力向上に寄与する環境整備を、周辺環境への十分な配慮のもと行う必要があります。**
玄界灘、唐津湾 **■良好な自然環境の保全・活用** ○　玄海国定公園に指定された、本市を代表する美しい地形・景観が広がっています。 **⇒豊かな地形による美しい景観を維持・保全するとともに、離島めぐりなど地域資源を活かした新たな仕掛けづくりが必要です。**


現況の都市構造図
凡　例
拠点
都市中心拠点
地域生活拠点
農業拠点
軸
広域交通軸
都市間交通軸
土地利用
市街地ゾーン
地域生活・環境共生ゾーン
自然環境ゾーン（海）
自然環境ゾーン（山）
地域区分
雄大な自然とその傾に位置する湖と、それを囲む地域
松浦川沿川の地域
利水により開拓された生産地
美しく豊かな自然地形を有する地域
歴史・地形・現代生活（観光・漁業などの人間の営み）が融合した地域
唐津の伝統的建物（鏡山、虹の松原）を有する地域
唐津中心部および唐津市周辺地域
その他
鉄道
行政界
地域界
離島航路
至福岡都市圏
■虹の松原、鏡山周辺の景観形成、土地利用コントロール
・特別名勝虹の松原、鏡山が左右に位置する国道202号における沿道景観の乱れ
■豊かな自然環境に恵まれた山・里のまちづくりへの活用
（七山～背振北山・天山・八幡岳県立自然公園一帯）
・福岡・佐賀都市圏などの人々を惹き付ける自然や、そこでの人間の営みが存在
■唐津港
・石炭積出港として繁栄した歴史
・壱岐航路の玄関口として重要な拠点
・高速交通体系との連携が課題
■唐津市中心部の再生
・石炭産業に代わる新たな産業の不確立、市街地拡大、福岡都市圏への流出等により、中心市街地の活力が低下
■西九州自動車道ＩＣ周辺の土地利用
・西九州自動車道ＩＣの開通による新たな物流拠点としてのポテンシャル向上に伴う土地利用コントロールの必要性
■豊富な景観・観光資源の活用
・歴史・地形・生活（観光・漁業などの人間の営み）等の資源が充分に活かされていない
■良好な自然環境の保全・活用
・玄海国定公園内に浮かぶ美しい島しょ景観
・海の食文化、古来からの歴史文化等の存在
■玄海国定公園に指定された美しい自然景観の保全・活用
・自然環境を意識した取り組みの実施
■環境共生型地域づくり
・現在の資源を利活用した開拓農地
■松浦川沿川を都市骨格としたまちづくり
・炭鉱閉鎖に伴う、松浦川を介した地域間交流の低下

３－２　将来都市構造

（１）　目指す将来都市構造の基本イメージ

前項で整理した現在の都市構造や将来都市構造を検討する上での留意点等を踏まえ、目指す将来都市構造についての基本イメージを整理します。

① 都市骨格とは

都市構造を整理する上では､｢都市骨格｣を認識しておく必要があります｡**都市骨格とは、「将来の都市構造を形成していく上での重要な骨組み」のこと**です。

特に本市においては、海、山、川などのダイナミックな地形により成り立っているため、これら自然地形がこれまでの都市形成にも大きく影響しており、将来の都市構造を定める上でも認識しておくべき重要な要素となります。

② 本市の都市骨格

本市の地形、歴史・文化等のポテンシャルから本市の成り立ちを読み解くと､「３－１　現在の都市構造」で整理したように、西側は、玄界灘に面し、大陸に近いことからも多彩な文化が育まれた地域となっています。一方、東側は、自然豊かな山地であることから、自然環境と人々の暮らしとの共生の場となっています。これら東西により異なる特性を持つ自然、歴史・文化等の特性が、本市中央を流れる松浦川沿川で出会い、その河口に本市の中心となる唐津地区が形成されています。

以上のことをふまえると、**中央を流下する松浦川沿川、および玄海国定公園に指定された国道 202 号、204 号の沿岸部が、本市の都市骨格として位置付けられます。**

名称及び機能	配置イメージ
都市骨格 ▶　将来都市構造を形成する上での重要な骨組み ▶　海、山、川などの代表的な地形が、本市の骨格を形成	◆松浦川 ◆厳木川 ◆沿岸部（玄海国定公園）

③ 都市構造を構成する要素

都市構造は、都市骨格を中心に、以下に示す３つの要素で構成されます。

≪都市構造を構成する要素≫

- ●ゾーン　：概ねの機能毎に区分した土地のまとまり
- ●拠点　：まちづくりの活動の中心的な場
- ●軸　：交流やネットワークを担う動線、線形

④ 将来都市構造の基本イメージ

本市は、９つの特色ある地域により形成されています。特に唐津中心部においては、商業や公共施設などの広域的サービス施設が整っており、本市の中心的役割を果たしています。また、周辺地域においては、豊かな自然環境や歴史・文化的な観光・交流資源など、各々の地域の個性があり、魅力的な地域となっています。

今後のまちづくりにおいては、これら地域の個性を踏まえ、各地域の役割を明確にしながら、地域の拠点性を向上させる生活環境の整備充実を図ることが重要です。また、各地域で不足している機能等については中心部や各地域間で補完し合うなど、地域間の連携強化を図っていくことが重要です。その際、地域間の移動手段が重要であり、公共交通機能の整備・充実など、地域間交流を促進する環境づくりが重要です。

以上のようなことを踏まえ、将来都市構造の基本イメージを以下に整理します。

＜将来都市構造の基本イメージ＞

●**必要な都市機能は中心部（都市中心拠点）に集約**するなど、都市の中心をより明確化した**機能集約型の都市構造を形成**しながらも、一極集中を図るのではなく、**各地域のコミュニティ・特性を大切にした多様な地域核のある都市構造**を形成します。

●都市中心拠点、地域生活拠点を中心とした、国県道や鉄道等による環状・放射ネットワークにより、**多様な地域核が有機的に連携し、都市全体として一体感のある都市構造**を形成します。

●各拠点を中心とした都市機能・人口の集約化や、地域内での公共交通の循環等により、自動車利用を抑え、**身近で日常生活の用が足せるような生活圏が形成された都市構造**を形成します。

●散発的な宅地開発を抑制することで、**周辺の豊かな自然と共生した都市構造**を形成します。

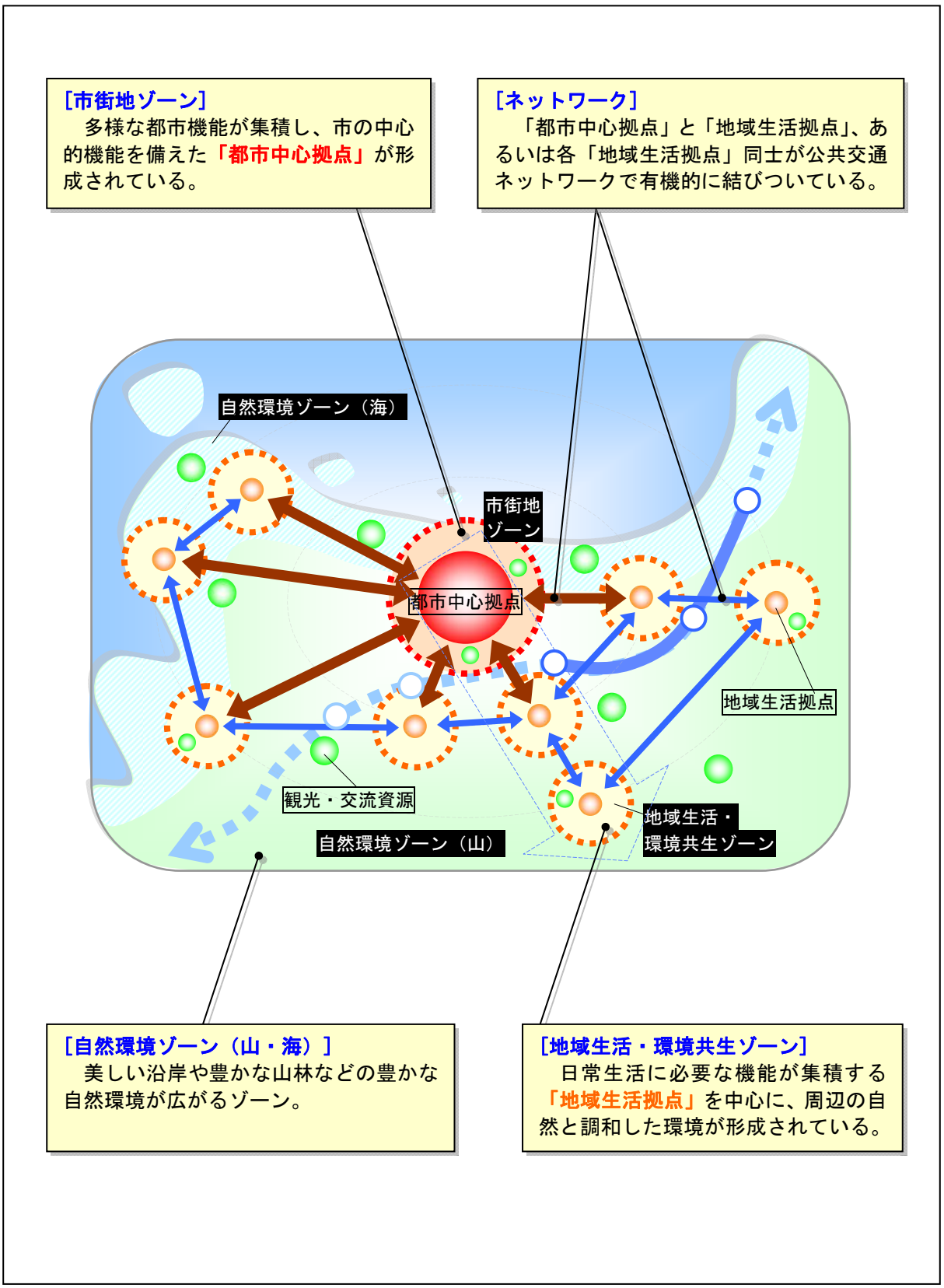


図　将来都市構造の基本イメージ

（２）　都市構造の構成要素

前項で示した将来都市構造の基本イメージをもとに、都市の骨格を形成する道路・鉄道・山林・河川などを主体とした将来都市構造図を整理します。

① ゾーン

⇒それぞれの地域の特徴を明確にし、地域特性に応じたまちづくりを行っていくためにも、概ねの機能毎に区分した土地のまとまりを「ゾーン」として設定します。

市街化を進める区域や、自然と調和、一体化した居住環境等を確保する区域を中心に、６つのゾーンを設定します。

名称及び機能	配置イメージ
①市街地ゾーン ▶　市中心部の主に都市活動を行う区域を指定します。 ▶　都市軸沿い・交差部を中心として、まとまりのある市街地の形成、都市の活性化に必要な都市機能の配置等を進め、快適便利な定住の場としての役割を担います。	◆唐津地区市街地部
②地域生活・環境共生ゾーン ▶　市街地周辺部に広がる平坦地や田園地帯、台地など、地域の都市活動を行う区域、田園・里山との共存を図る区域、農業生産の促進を図る区域を指定します。 ▶　地域生活拠点を核として、地域内での生活に必要な都市機能の配置等を周辺の自然との調和に配慮して進め、快適でゆとりある居住の場としての役割を担います。また、優良農地についてはその保全に努め、農業生産地としての役割を担います。	◆浜玉、厳木、相知、北波多、肥前、鎮西、呼子、七山の各地域生活拠点周辺 ◆郊外部の優良農地一帯や河川沿いの平坦地、漁村集落など ◆東松浦半島の内陸部に広がる上場台地一帯
③自然環境ゾーン（海） ▶　沿岸地域の保全等を目的とした区域に指定します。 ▶　本市を代表する美しい沿岸景観であり保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。	◆玄海国定公園に指定された海岸部及び島しょ
④自然環境ゾーン（山） ▶　主に森林の保全等を目的とした区域に指定します。 ▶　都市環境を支える豊かな自然として、防災等の観点からも保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。	◆市南部から東部に連なる山地
⑤景観・観光振興ゾーン ▶　各ゾーンにおいて、自然地形、景観、歴史などの資源が集積している区域に指定します。 ▶　地域資源の保全・活用を図るとともに、観光客への「もてなし空間」としての役割を担います。	◆市街地ゾーン沿岸部、呼子・肥前地域の沿岸部、肥前地域の半島、松浦川沿川、七山地域一帯
⑥土地利用調整ゾーン ▶　ＩＣ周辺や用途地域外縁部などの開発圧力の高い区域に指定します。 ▶　農地等周辺環境との調整を図りながら、適切な土地利用を図るべき地域としての役割を担います。	◆各ＩＣ周辺 ◆久里、双水、山本、石志地区などの既存集落周辺

② 拠点

⇒効率的・効果的なまちづくりを推進するためにも、「ゾーン」内でも特に活動の中心や地域の中核となる場を「拠点」として設定します。

本市を代表する「唐津の顔」となる中心の場、周辺地域の旧来の生活中心の場、観光・交流の場などを中心に、６つの拠点を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
生活圏における拠点	**①都市中心拠点** ▶ 広域的な圏域を持つ行政、商業、観光、医療等の様々なサービス機能や観光・交流資源等が集積し、市民や来訪者で賑わう「唐津の顔」としての役割を担います。 ▶ 唐津市全体の活力をけん引する「唐津の顔」として、様々な都市機能が周辺部に拡散することなくまとまって集積するコンパクトな市街地形成を目指します。	◆唐津地区の唐津駅、バスセンターを中心とした区域（中心市街地）
	②地域生活拠点 ▶ 身近な生活需要に対応した、地域生活の中心の場としての役割を担います。 ▶ 行政、公共交通、近隣商業等の身近な生活サービス機能の集積、地域特性の活用により地域生活拠点の再生を図り、**周辺の集落での生活も支える地域生活の中心の場の形成**を目指します。	◆浜玉支所を中心とした区域 ◆厳木支所を中心とした区域 ◆相知支所を中心とした区域 ◆北波多支所を中心とした区域 ◆肥前支所を中心とした区域 ◆鎮西支所を中心とした区域 ◆呼子支所を中心とした区域 ◆七山支所を中心とした区域
地域の特徴をあらわす拠点	**③景観拠点** ▶ 本市を代表する守るべき景観資源として、地域住民の愛着や市内観光の魅力を支える役割を担います。 ▶ 景観保全への取り組み、観光交流への活用等を先導的に展開し、地域活力の向上を目指します。	◆虹の松原　◆名護屋城跡 ◆鏡山　◆いろは島 ◆唐津城　◆蕨野の棚田 ◆立神岩　◆樫原湿原 ◆七ツ釜
	④観光・交流拠点 ▶ 各景観・観光振興ゾーンにおける中心的役割の場所に位置し、県内外からの来訪者へのもてなしの場としての役割を担います。 ▶ 観光情報提供をはじめ地域内外の観光交流を促す場づくりなど、市内観光発展による地域振興を目指します。	◆唐津港 ◆呼子支所を中心とした区域 ◆相知支所を中心とした区域 ◆肥前支所を中心とした区域 ◆七山支所を中心とした区域
	⑤物流・業務拠点 ▶ 西九州自動車道および佐賀唐津道路の高速交通体系の結節点として、周辺土地利用を含め将来都市構造の中でも重要な位置づけを担います。 ▶ 高速交通体系の結節点の強化とともに、利便性を活かした本市流通産業、業務機能の拠点形成により、市内産業の振興を目指します。	◆唐津ＩＣ周辺 （例）流通業、事業所等
	⑥産業拠点 ▶ 本市を代表する水産業の拠点として、また高速交通体系との連携による新たな産業拠点として、地域活力の向上に重要な役割を担います。 ▶ 優先的に産業集積を図り、市内産業の振興を目指します。	◆唐津港 ◆厳木地区の新工業団地 （例）水産業、流通業、製造業等

③ 軸

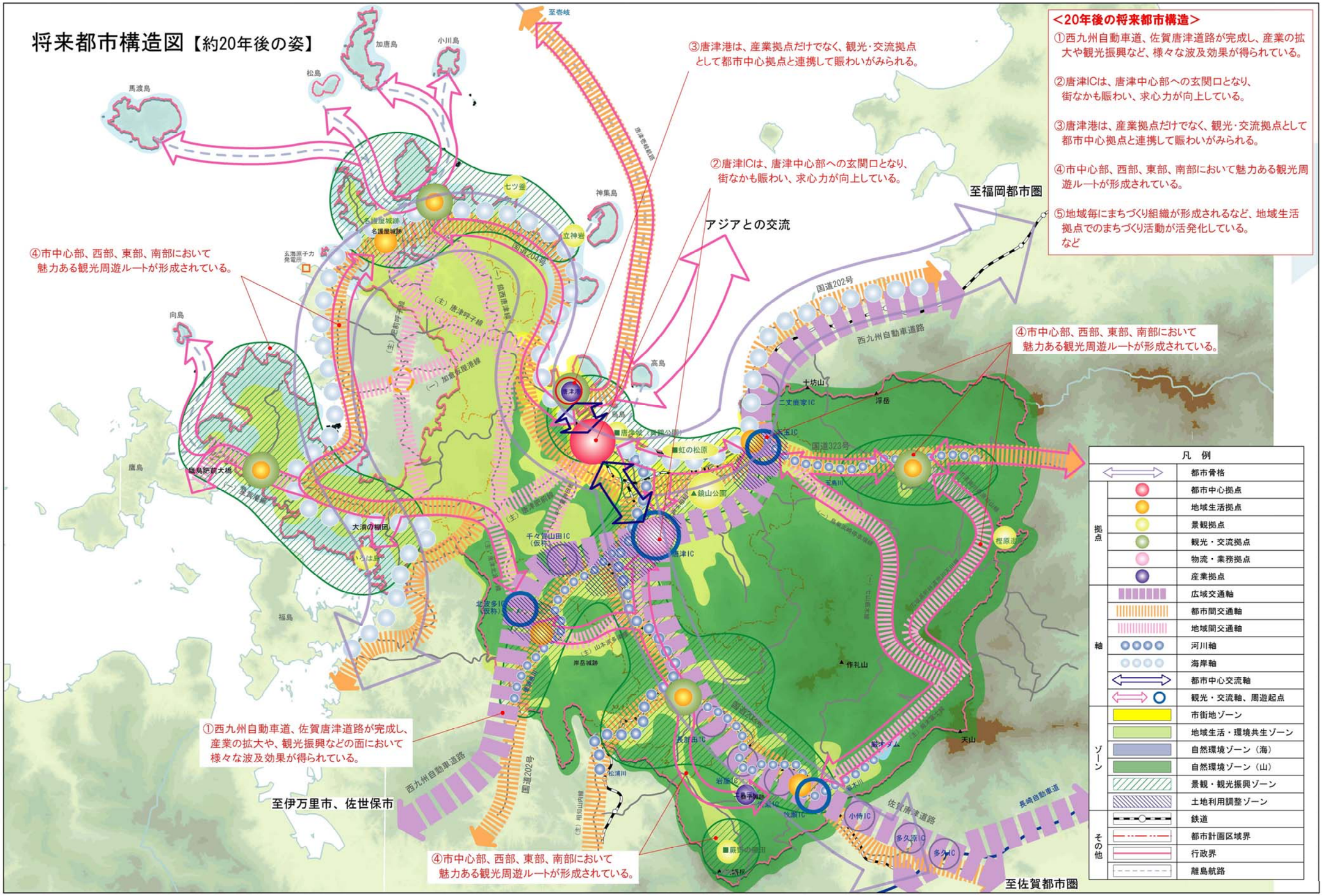
⇒広域交通や都市間交通、地域内交通などの交通網の整備は、地域間の交流や観光を通しての交流など、まちづくりに寄与することが期待できることからも、ネットワークや交流を担う線形、動線を「軸」として設定します。

市内外の様々な都市活動の場を結ぶ幹線道路や、都市環境の向上に資する河川、来訪者の観光動線等を中心に、７つの軸を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
都市軸	**①広域交通軸** ▶　本市と福岡都市圏、佐賀都市圏とを結びつけ、広域的な交流を促す役割を担います。	◆西九州自動車道 ◆佐賀唐津道路 ◆鉄道
	②都市間交通軸 ▶　広域交通軸の機能を補完し、本市と周辺市町の交流を促す役割を担います。	◆国道 202 号 ◆国道 203 号 ◆国道 204 号 ◆国道 323 号 ◆（主）相知山内線 ◆壱岐航路 ◆鉄道
	③地域間交通軸 ▶　都市中心拠点、地域生活拠点、観光・交流拠点等様々な拠点を結びつけ、日常生活や観光・交流の利便性を高める役割を担います。	◆（主）浜玉相知線 ◆（主）唐津肥前線 ◆（一）千々賀神田線 ◆（主）唐津呼子線の一部 ◆（一）鎮西唐津線 ◆（主）肥前呼子線 ◆（主）唐津北波多線 ◆（主）山本波多津線 ◆（一）鳥巣浜崎停車場線の一部 ◆（一）七山厳木線の一部 ◆市道滝川桑原杉山線 ◆広域基幹林道荒川天川線 ◆（主）厳木富士線の一部 ◆（一）星賀港線 ◆（一）加倉仮屋港線 ◆鉄道
地域軸	**④河川軸** ▶　市民の身近な憩いの場として、また、自然や歴史を巡ることのできる動線としての役割を担います。	◆松浦川 ◆厳木川 ◆徳須恵川 ◆玉島川
	⑤海岸軸 ▶　本市の代表的な景勝地である玄海国定公園の景観を楽しむことのできる動線としての役割を担います。	◆国道 202 号、国道 204 号の沿岸部

	名称及び機能	配置イメージ
交流軸	**⑥都市中心交流軸** ▶ 広域交通軸との連携による人・物・金・情報などの流入を都市中心拠点へと促すとともに、唐津港の産業、観光・交流拠点としての魅力を引き出す主軸としての役割を担います。	◆唐津 IC、中心市街地、唐津港を結ぶ国道、県道、市道
	⑦観光・交流軸 ▶ 本市の景観・観光資源をネットワークした、主要な観光周遊ルートとして、本市の観光振興の主軸としての役割を担います。	◆国道 203 号 ◆国道 204 号 ◆国道 323 号 ◆（一）虹の松原線 ◆（主）唐津北波多線 ◆（主）山本波多津線 ◆（一）鳥巣浜崎停車場線の一部 ◆（一）七山厳木線の一部 ◆市道滝川桑原杉山線 ◆広域基幹林道荒川天川線 ◆（主）厳木富士線の一部 ◆（主）伊万里畑川内厳木線 ◆（一）平山相知線 ◆（一）星賀港線 ◆鷹島肥前大橋 ◆壱岐航路 ◆馬渡島、松島、加唐島、小川島、向島への離島航路 など
	周遊起点 ▶ 市外からの来訪者の観光ルートの起点となる地域として重要な、情報発信などのもてなしの場としての役割を担います。	◆唐津ＩＣ周辺 ◆浜玉ＩＣ周辺 ◆（仮称）北波多ＩＣ周辺 ◆牧瀬ＩＣ周辺

（３）　将来都市構造図


将来都市構造図【約20年後の姿】
<20年後の将来都市構造>
①西九州自動車道、佐賀唐津道路が完成し、産業の拡大や観光振興など、様々な波及効果が得られている。
②唐津ICは、唐津中心部への玄関口となり、街なかも賑わい、求心力が向上している。
③唐津港は、産業拠点だけでなく、観光・交流拠点として都市中心拠点と連携して賑わいがみられる。
④市中心部、西部、東部、南部において魅力ある観光周遊ルートが形成されている。
⑤地域毎にまちづくり組織が形成されるなど、地域生活拠点でのまちづくり活動が活発化している。
など
③唐津港は、産業拠点だけでなく、観光・交流拠点として都市中心拠点と連携して賑わいがみられる。
②唐津ICは、唐津中心部への玄関口となり、街なかも賑わい、求心力が向上している。
アジアとの交流
至福岡都市圏
至壱岐
④市中心部、西部、東部、南部において魅力ある観光周遊ルートが形成されている。
④市中心部、西部、東部、南部において魅力ある観光周遊ルートが形成されている。
①西九州自動車道、佐賀唐津道路が完成し、産業の拡大や、観光振興などの面において様々な波及効果が得られている。
至伊万里市、佐世保市
至佐賀都市圏
西九州自動車道
国道202号
国道204号
国道323号
唐津港
唐津城
虹の松原
鏡山公園
名護屋城跡
七ツ釜
立神岩
神集島
加唐島
小川島
松島
馬渡島
向島
鷹島
高島
鳥島
玄海原子力発電所
唐津市
佐賀唐津道路
長崎自動車道
凡　例
都市骨格
拠点
都市中心拠点
地域生活拠点
景観拠点
観光・交流拠点
物流・業務拠点
産業拠点
軸
広域交通軸
都市間交通軸
地域間交通軸
河川軸
海岸軸
都市中心交流軸
観光・交流軸、周遊起点
ゾーン
市街地ゾーン
地域生活・環境共生ゾーン
自然環境ゾーン（海）
自然環境ゾーン（山）
景観・観光振興ゾーン
土地利用調整ゾーン
その他
鉄道
都市計画区域界
行政界
離島航路

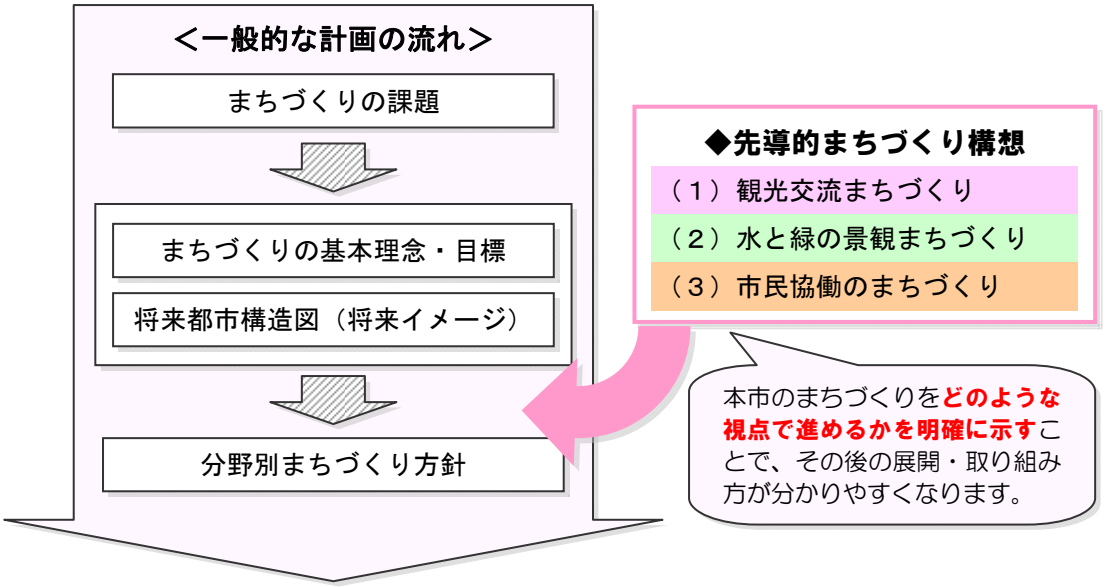
第４章　先導的まちづくり構想

４－１　先導的まちづくり構想のねらい

都市計画マスタープランを実行性の高い計画とするためには、具体的に何をするのか、それを行うことでどのような効果があるのかなど、**市民が見て分かりやすくなるような工夫が必要**です。

そこで、本計画では、将来像（将来都市構造）の実現に向けて、**「先導的まちづくり構想」を設定**します。

「先導的まちづくり構想」は、**将来像（将来都市構造）の実現に向けてリーディングプロジェクトとして本計画をけん引していくもの**です。将来都市構造図における優先的に整備すべきポイント、強みを活かすポイント、弱みを補強するポイントなど、**どの視点を重視して取り組むべきか明確にして戦略的に進める**ことで、将来像の実現を効果的に図っていくものとして位置づけます。



４－２　先導的まちづくり構想のポイントについて

「先導的まちづくり構想」は、これまでの「唐津市の概況」から見えてきた課題や「将来都市構造を実現するための課題」などを踏まえ、以下の３つを設定します。

■各先導的まちづくり構想のポイント

基本理念、まちづくりの目標、将来都市構造を実現するために、以下の３つの先導的まちづくり構想を戦略的に取り組みます。

A 観光交流まちづくり

：各地域の有する観光・交流資源を活用しつつ他地域との連携を図りながら地域づくりを進めることにより、地域内だけでなく市全体の活力を向上させていくことをねらいとします。

B 水と緑の景観まちづくり

：都市骨格となる松浦川沿川や景観拠点などで先導的に景観づくりを進めることにより、周辺地域の景観づくり・環境保全へと波及させ、市民の景観に対する取り組みの機運を高め、地域の個性ある景観を保全しつつ、観光・交流資源としても活用していくことをねらいとします。

C 市民協働のまちづくり

：元気あるまちづくりには、市民自らが考え、行動することが大切であることからも、地域住民の自発的なまちづくりへの参画により、各地域の特色あるまちづくりが継続的に実施され、安定した地域の再構築を図ることをねらいとします。